

世界の視点で情報を発信する総合誌

2017 October

# KORON 10

MONTHLY

発行・株式会社財界通信社 平成 2017 年 10 月 1 日発行  
毎月 1 回 1 日発行 第 52 巻 10 号  
昭和 47 年 11 月 10 日第三種郵便物認可

## 提 言

責任ある行動への  
実り多き論戦に期待

(豆蔵ホールディングス社長)

(松竹専務／松竹衣裳会長)

## リレー対談 萩原 紀男 氏 vs 武中 雅人 氏

文武両道の同級生が異業種で日本の武芸柔道と伝統芸能  
M&A・異なる会社の風土と一体化には最適なスポーツ経営

羽田、関空、高松、石垣など国内 9 都市に就航

急成長する LCC「香港エクスプレス」  
コーベンCEOを現地直撃

今年 10 月から遂に届出制に

再び注目のビットコイン「仮想バブル」の兆し

月刊公論

## 長尾和宏の「生」と「死」



長尾和宏  
(ながお かずひろ)  
医療法人社団裕和会理事長、  
長尾クリニック院長

1984年 東京医科大学卒業、大阪大学  
第二内科入局、  
1991年 医学博士（大阪大学）授与  
1995年 兵庫県尼崎市で長尾クリニック  
を開業、現在に至る  
日本慢性期医療協会理事、日本ホスピ  
ス在宅ケア研究会理事、日本尊厳死協  
会副理事長、全国在宅療養支援診療所  
連絡会理事、関西国際大学客員教授

[医学博士] 日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、日本在宅医学学会専門医、日本禁煙学会専門医、日本内科学会認定医、労働衛生コンサルタント

【著書】  
『平穏死・10の条件』(ブックマン社)、  
『抗がん剤・10のやめどき』(ブックマン社)、「胃ろう」という選択、しない  
選択』(セブン＆アイ出版)『がんの花  
道』(小学館)『抗がん剤が効く人、効  
かない人』(P.H.P.研究所)『大病院信  
仰、どこまで続けますか』(主婦の友社)

など。  
医学書  
スーパー総合医叢書・全10巻の総編集  
(中山書店) 第一巻「在宅医療のすべて」、第二巻「認知症医療」など多数。

# 英國の難病乳児 尊厳死・安楽死の

リビングウイル啓発を目的とする日本尊厳死協会は、安楽死に反対していることは、ほとんど知られていない。国民皆保険制度が整備されている我が国では、尊厳死が認められれば安楽死は不要という認識である。しかし、安楽死団体と間違えて取材に来られるメディアが後を絶たない。先日、「安楽死法の制定を」と主張する論客と対談をする機会があった。その主張をよく聞いてみると、彼の望みは安楽死ではなく尊厳死のことであった。このように混同が著しく、そして、それが終末期議論が混迷する一因となっている。

有力な言論誌でもよく「安楽死や尊厳死は……」という表記を見かけ

るが、意味が異なる言葉をひとくくりにすることに違和感を覚える。生命倫理を言語という道具を用いて論じる限り、言葉はできるだけ正確に使わないし、議論が混乱するばかりだ。

## 小児の終末期医療

以上の前提で英國の事例を振り返つてみたい。あれはどちらなのかか両者の区別は死期が近いかどうかがポイントとなる。尊厳死はリビング・ウィルと「不治かつ末期」が前提条件となる。しかし、この赤ちゃんの病は不治かもしれないが、当初は「末期」とは言えなかつた。だから両親が米国医師の見解を受け入れるまでは「安楽死」と表記されるべきであった。しかし、もはや死期が近いと

小児の終末期医療

今年7月、英国の乳児の安樂死が大きく報道された。深刻な難病で生命維持装置をつけていたチャーリー君（生後11カ月）の治療中止を巡って、世界的な議論になつた。「ミトコンドリアDNA枯渇症候群」と診断されたチャーリー君は、内臓や筋肉、脳に深刻な損傷を負つていた。病院は「やるべき治療は總てやつた」とし、両親に生命維持装置を外して安樂死を受け入れることを提案した。病院は裁判所に安樂死の許可を申請し、欧州人権裁判所は今年6月、「治療継続はさらなる苦しみを与える」として、これを認める決定を下し、チャーリー君を国外に渡航させることを禁じた。安樂死を認めていない英國においては異例の判断と言えよう。

一方、両親は「命が尽きるまで諦めない」と安樂死を拒否。米国の医師に相談したところ、欠如している物質の経口投与を約束されたという。治療費や渡航費を募るために、両親はネットサイトを設置し130万ポンド（1億9000万円）以上の寄付を集めた。特朗普米大統領やバチ

に世界の関心が高まつた。トランプ氏は「もし私達が助けることができるなら喜んでそうしよう」とツイート。ホワイトハウスが両親と連絡を取りつた。

さらにフランシスコ・ローマ法王は、最期まで子供に寄り添い治療にあたるべきと主張し、バチカンが運営するローマの小児病院が受け入れを表明した。

しかし、英外相は裁判所の渡航禁止命令を理由に小児病院への転院を禁じた。最終的に米国の医師が脳のMRI画像を診て「時すでに遅し」と診断。「これ以上の治療継続は苦痛を長引かせるだけで尊厳を損なう」と判断された。両親はこの見解を受容し訴えを取り下げ、ホスピスに移った。チャーリー君は1歳の誕生日を目前に、呼吸器を外され亡くなつた。

日本の各メディアもこの出来事を伝えた。しかし「安楽死」と報じたメディアと、「尊厳死」と報じたメディアが見事に混在していた。ある大手新聞は、本紙では「安楽死」、Web版では「尊厳死」と報じていった。同一新聞内でさえ用語が統一さ

そもそも両者は異なるものである。「安樂死」は、余命がまだ半年以上ある人に医師が直接注射をしたり自殺薬を処方したりして人為的に寿命を短縮する行為で、日本では殺人罪である。一方、「尊厳死」とは、自然死・平穏死とほぼ同義で、終末期と判断された人の延命治療を差し控えて、充分な緩和ケアを受けながら自然な経過に任せた最期である。法的にはグレーゾーンである。両者は明らかに異質であるのに、世間では混同され続けメディアでは誤報続いている。

# の延命中止報道

医学博士 長尾 和宏

七言大詩曰「大珠圓如月」

に世界の関心が高まつた。トランプ

そもそも両者は異なるものである。